

『ていあんくん』の回答について 2024/07/22

理解力を疑うピント外れの回答。「不都合な質問」には、『木で鼻をくくる』対応。『攻撃的対応』によって自己防衛を図る手法。求めた資料は時に『存在しない』とする手法。以下、私の「ていあんくん」に対する木林議会事務局長からの「回答」です。

木林議会事務局長とのやりとりのご理解ご判断頂き、町政の基本的改善を願うものです。

提案1、議場の椅子の「取り替え」は、「修理不能な痛んだものだけ」にしてはどうか」

■ 件名1の回答

開示資料のとおり、椅子は①25年～33年近く使用していますが、姿勢調整機能もほとんどなく老朽化しており体の負担となっていることから②入替について決定いただいたものです。

入替方法のひとつとして、修理をして直らない状態のものだけを交換する方法もありますが、③同じ形状の椅子がいつまでも生産されるとは限りませんので、結果、形状・種類の違う椅子を購入し議場の統一感がなくなることと、その都度バラバラ購入すると費用が割高になる可能性もありますので、一括で購入することといたしましたのでご理解願います。

なお、④人伝えに聞いた内容が書かれておりますが、そのような事実は一切ありません。また、議会事務局において、働き方改革の一環、職場環境の改善という説明はしておりません。
(安平町議会事務局長 木林)

①姿勢調整機能もほとんどなく、体の負担となっている

● そんな話は聞いたことありません。

議員や議長、説明員の椅子の購入年月日を『令和6年度事業』に計画された理由が、「姿勢調整機能もほとんどなく老朽化しており体の負担となっている」とありますが、『本当だろうか』と疑問に思います。

2年前まで、4年間、同じ椅子に座っていたけれど、「姿勢調整機能もほとんどなく・・・体の負担」がある、などという「話」をただの一度も聞いたことがなかったからです。

● サバを読んでいるのか、どんぶり勘定なのか。

もし、自分自身、座った経験がなかったら『そうなのか』と簡単に納得したと思いますが、そもそも、そんな椅子が何脚あるのか、数字がはっきりしません。サバを読んでいるのか、どんぶり勘定なのか、わかりません。

● 議員の椅子は高級感のある座り心地の良い椅子でした。

私自身、それまで職場や自宅で利用していた椅子と比べても、はるかに高級感のある座り心地が良かったものでした。私が40代に発症したいわゆるギックリ腰の後遺症に刺激を受けることもなく利用していました。

②「入替」を決定

- 姿勢調整機能もほとんどなく老朽化しており体の負担となっていることから「入替について決定②」して頂いた。

しかし、ここでは、書類上明らかになっているのは、『議場椅子更新』は、令和5年7月27日に事務局レベルで新規事業として決定とされていることだけです。気になるのは、この時、購入年月日だけの確認を行い椅子の1つ1つの点検が全く行われていないことです。

- つまり、交換の全く不要な椅子は、いくつあったのか。その点検と確認を、議員や説明員間で行ったのか。その事実が全く示されていない。数字はもちろん証拠写真も示されない。『入れ替えに必要な椅子』は存在しないのではないかと思うほどだ。もし、自分の懐から資金を出すとなれば、『使用可能な椅子と修理可能なもの、廃棄して交換を要するもの』の選別を真剣に行ったであろうと思う。全部税金で支払うからというので慎重な点検、検討もせず、どんぶり勘定で、全部、ぶん投げて『全部新品にする』と言う荒技をやったのけたのだと、言われかねない。

③議場の統一感、バラバラ購入すると費用が割高に・・・(木林事務局長)。

- 「同じ形状の椅子がいつまでも生産されるとは限りませんので、結果、形状・種類の違う椅子を購入し議場の統一感がなくなる。その都度バラバラ購入すると費用が割高になる可能性がある。(木林事務局長)

椅子の色が同じで、大きさもそれに近ければ、そんなに「統一感」がなくなることはありませんね。やってみたらわかります。一個一個の割高の話ではありません。総額の話です。

ましてや利用するのは議員と役場職員です。経費の無駄使いをやめるために、椅子の一部に、よく見ると違うところがある、と言う程度です。こうした判断は、むしろ、議員として、役場職員として税金を大切に使っていると賞賛されるでしょう。

④「人伝えに聞いた内容が書かれておりますが、そのような事実は一切ありません。」(木林事務局長) 弁明。・・・しかし？

- 具体的に何が言いたいのでしょうか。正確には見当がつきませんが、議場の椅子の『総入れ替え』の流れが起こったいきさつを聞いたところ、「説明員の椅子の交換の話が最初だった。」との話のみ。「それが議員の椅子の交換に進んだ」との話を複数聞いています。それ以上の話は私の方からはしません。ただ、言えることは、『議場の椅子の入れ替えが必要だ』という話し合いは、皆無だ、と言うことです。『椅子が新しくなるのは良いことだ』という程度の理解で、『使用できる椅子の数、修繕すれば使用可の数、交換する必要のない椅子の数』等々が、議員や、説明員の間で確認されず、全体として、『椅子に入れ替え』の共通認識が出来上がったと言うことにつきます。

提案2, 椅子取り替えの根拠(資料)を求める。

■ 件名2の回答

⑤椅子取り替えの根拠とは何を意味するのか理解に苦しみますが、事業の必要性などは開示資料に記載していますし、予算は見積もりを徴収し適切に計上しております。椅子の耐用年数はとうに過ぎておりますのであわせてご理解願います。

最後に⑥事業の目的・必要性については既に資料を開示しております。また、その後の開示請求についても資料はない旨回答しております。今回3回目となるお問い合わせにつきまして上記のとおり回答いたしますが、⑦本件に関する回答は今回で最後とさせていただきます以後回答はしませんのでご了承願います。

(安平町議会事務局長 木林)

⑤「椅子取り替えの根拠とは何を意味するのか理解に苦しみます。」(木林局長)

「理解に苦しみます。」と、驚きの回答。普通に言っても、『椅子を取り替える必要と言えば、多くの場合、「破損等により使用不能になり交換の必要性生まれた場合』でないでしょうか。私は、情報公開条例を使い、議会事務局に「①椅子に皮のすり切れ状態 ②高さ調整機能の不全」等に状況を写真の添付も含め開示を求めましたが、『文書が存在しない』との回答でした。なぜ、『文書が存在しないのか』この度のやりとりで、その理由がわかりました。「交換する椅子の実態を内容ごとに、正確に数字で把握していなかったから」ですね。

厳しい言い方をすれば、『椅子の交換という仕事』を、『適当にいい加減に』考えて手取早く「全ての椅子の買い換え」を決めていたからではないですか？ ですから、『椅子取り替えの根拠』を聞かれて、『理解に苦しむ』とあたかも、私が見当違いの質問をしたかのような『印象操作を施した回答』をよこしたのですね。

⑥その後の開示請求についても「資料はない」と回答しております。(木林局長)

「事業の目的・必要性については既に資料を開示しております。また、その後の開示請求についても資料はない旨回答しております。」とありますが、『事業の目的・必要性については、結果的にさほど重要ではなく、『必要性』と書いてある内容に重要性がありました。そこで取り替える必要の出た『椅子の状態』の把握を求めたものです。大雑把な仕事で『資料を作らずにいた』ため『資料はない』との回答になったのです。」

⑦本件に関する回答は今回で最後とさせていただきます以後回答はしません。

(木林事務局長)

『以後回答はしません』と居丈高な回答。『答えられないからつらいのですね。』

私の入院中、本人のいない場所で「事実と異なる批判・攻撃」を行う。退院後に議事録に従って事実関係の確認を求めたら『回答の必要ない』と回答拒否。しかも、攻撃的拒絶的態度。都合が悪ければ、気に食わなければ、電話を一方的に『ガチャン』と切るあなたの習性(?)。あなたの以前の部下が、さっそく一般町民に対し真似したじゃないですか。

